

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10月号 (NO54)

2014年10月10日 (金) 発行 (毎月10日)

【農暦】 あまり頑張らずに 具体的に動くこと！

○台風19号が連休明けの14日には関東に来る予報が出ている。海水面の温度が高いと巨大に発達すると云われているが、多くの災害をもたらした18号よりも発達しそうな勢いである。今は920ヘクトパスカルで一時900の数字を見て驚いた。台風の巨大化は海水面の温度上昇によると云うから地球温暖化の影響？と思う他ない。気候サミットの開催のニュースで、温室効果ガスの最大排出国のアメリカと中国が抑制を表明したと云う。今頃になってかと思うが朗報である。18号では“そば”の被害が出たと云う。異常気象が続く中で、御嶽山の噴火で多くの人命が奪われた。天変地異が続く、自然との共存や畏敬の念を以て、謙虚に生きる事を人類が問われている様な気がする。

○ピッコロファームの秋の例会が、那須のメンバーの農園で26-27日に予定されていた。那須へは1年振りになるので楽しみにしていた。車が異常に弾む様な違和感があったので、点検を依頼した。サスペンションの故障と言われた。安全運転をすれば問題ないでしょうと言われたが、久し振りに高速道路を走る事になるのである。修理部品は26日にしか入らないと言われ、参加を諦める事にした。那須での農作業や収穫物の写真や情報のメールを貰っていたので、かつて頑張っていた時の記憶と重なり、援農作業と酒宴に、那須の温泉も楽しみにしていたので残念であった。

○塞翁が馬ではないが、何が起るか判らない。最近は。アクシデントで、やる気力が削がれる事を強く感じる。痛風発症(7月)で谷川岳登山計画が、トラクター故障(8月)で農作業が、草の繁茂力はアクシデントではないが、天候や雑事や体力を理由？にして負けてしまった。今年は終わっていないのに結論を出してしまったところがある。まだ黒豆や糖度が高いと云われている“カボチャの南部一郎”の収穫はこれからだと云うののである。

○今日(10日)は、台風の猛威が迫っているのが嘘のような秋晴れの穏やかな日和である。元会社の友人の繋がり、東京から15名の来訪があった。笠間の観光を共にし、畑に来られた。“草に負けた畑です”と説明した。



＜睡蓮の池にかかる太鼓橋＞春風萬里荘のモネの絵を模した池？。10日撮影

どう思われたか判らないが、摘んで食べて頂いたトマトの味は美味と言われた。また来たいとの話もあり、お世辞もあると思うが、好評であったと聞いた。だが、見せたくはなかった。反省の機会にはしたい。草の繁茂力と折り合いを付けるには、どうすればいいかを考えて来た。“アノネ あまり頑張らずに 具体的に動くことだね”の相田みつおの文言も思い出された。”あまり頑張れない”を基本に検討したいと思う。

○ここ1カ月の間に、農に関わる事で、何をしたのだろうかと手帳を見た。15日の所にトマト、モロヘイヤ、茄子、インゲン、栗の収穫とあった。草刈りばかりであった様な気がして記憶が薄い。異常気象と草刈りとアクシデントだけで、良いものの記憶は残っていなかった。台風19号の被害がない事を祈りながら“具体的に動きたい”と思っている。

【楽農】草刈り継続

<ハウス>; トマトなどの収穫、

<畑 A>; 白菜の定植、トマト、カボチャ、栗、菊の収穫。草払い機で全般除草。

<畑 B>; 黒豆、小豆、金時、トマト、茄子、里芋などの除草。

*草の繁茂力は収まっているが草刈り継続実施。

【楽市】イベント交流・直売など

○その他; コミュニティービジネス講座(27日)、共生の会(9日)、吟詠剣詩舞県西大会(28日)フリーマーケット(4日)に参加など

*車の修理のために那須でのピッコロファームの例会に不参加。



<ゴミを考える会主催のフリーマーケット>カボチャなどカンパした。漢方茶のハト麦の種を頂く。4日撮影

【つぶやき=Tweet】1%は誰かのために!

○台風18号の襲来に備え、ハウスや屋外の雑物のなどの風対策をして笠間から柏へ車で移動した5日の事である。日曜の移動はほとんどないので、たまたま“日曜はがんばらない”を聞いた。鎌田実×村上信夫の番組に池田香代子さんがゲストに参加してのトークであった。興味ある話をしていて、池田香代子が翻訳した『世界がもし100人の村だったら』と鎌田実の『1%の力』の話であった。売れ行き良く多額の印税が入るがすべて寄付されると云っていた。鎌田さんは1%だとかと話されていた。

○「村に住む人びとの100人のうち、20人は栄養がじゅうぶんでなく、1人は死にそうなほどです、でも15人は太り過ぎです、すべての富のうち、6人が59%をもっていて、みんなアメリカ合衆国の人です、74人が39%を、20人が、たったの2%を、分けあっています、すべてのエネルギーのうち、20人が80%を使い、80人が20%を分けあっています、75人は食べ物の蓄えがあり、雨露をしのぐところがあります、でも、

後の25人は、そうではありません、17人は、きれいで安全な水を、飲めません」これは「世界がもし100人の村だったら」の内容の一部である。アメリカのイリノイ州出身のドネラ・メドウス教授が1990年に「村の現状報告」として著した小文だと言われ、世界を一つの村に例え、人種、経済状態、政治体制、宗教などの差異に関する比率はそのままに、人口だけを1,000人に縮小して説明しています。これがメールで紹介され、いろいろなアレンジが加わり、1,000人が100人に縮小して世界に広まったといわれます。その話をもとに本にしたのが、池田香代子さんと、マガジンハウスから5回シリーズで出版された。

○『1%の力』は、1%は誰かのために生きなさい。個人も社会も幸福にする、小さいけれど、とてつもない力。愛する人を守り自分の大切な仕事を守るために、100%の力を注ぎながら「もう1%」が大切であることに気がつきました。自分の心の入れ物に、熱い思いが入りきれなくなって100%を超えていこうとする。この時に新しい世界に出会えるのです。100を超えて、あと1%。この時、人生は輝きを増すのです。今までのカマタの中になかった、新しい1%の哲学。1%は誰かのために生きてみてください。と、今この本は書店に並んでいる。

○老人漂流社会—老後破産（他人ごとではない）に続いて「武器輸出三原則」が「防衛装備移転」になって、パリでの武器見本市に日本のメーカーの出席で防衛官僚がビジネスをジョイント？する、のテレビ放映を観る。単身世帯が3分の1の1700万世帯に、年収では、100万円以下が7%upし2,500万円以上が1年で40%増え、正規社員473万円、非正規168万円であると、野党が追及する国会中継を数日置いて観る事になった。社会が変わって来ているようで怖くなる。唯一の明るい話題では、”21世紀はLEDに照らされる”で、赤崎さん、天沼さん、中村さんのノーベル物理学賞である。平和賞では「9条を守った日本国民」がノミネートされると云うオマケも付いた。21世紀は自然との共存の世紀と思っていたのだが、これだけで暗くなる。今回は、清少納言の枕草子の話にしたかったのだが、また、こんな話にしてしまった。

【後記】

食欲の秋、美味を！ 笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜乗馬クラブ＞茨城の竜ヶ崎にある乗馬クラブを見学。9日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>